

2016年1月31日(日)朝10:10～
1月第5回共同主日礼拝式説教

降誕節第6、自由交歓会等
日本アライアンス庄原基督教会

説教題：真実な証人デメテリオ

聖書：Ⅲヨハネ 1章11～15節

＜口語訳＞

新約聖書383頁

Ⅲヨハネ 1章11～15節

＜新共同訳＞

新約聖書449頁

Ⅲヨハネ 1章11～15節

＜新改訳第3版＞

新約聖書473頁

Ⅲヨハネ 1章11～15節＜塚本訳＞

新約聖書772頁

主題：主イエス様から賜った聖霊の導き

によって主の弟子たちは、主の名による
神の罪からの救いを宣べ伝えたように、
私たちも、福音を伝えたい。

序論；

- ◇ **Ⅲヨハネ書**は、**Ⅰヨハネ書**や**Ⅱヨハネ書**と違い、**ガイオ**への個人宛の書簡という形式をとっています。
 - ◇ 併し、冒頭の「**長老から**」という書き出しや**4節**の「**教会の集まり**」の表現から、**ヨハネ**による**牧会的公的書簡**として、**神の教会**で大事にされてきました。
 - ◇ **Ⅲヨハネ書1章1～8節**は、**神の教会**で用いられていた**ガイオ**へ「**彼が、神の真理に立って歩んでいる**」ことを**喜び**、「**旅人をもてなしている善行**」を「**継続**」してほしいとの**願い**が**認められ**おり、**9～10節**は、**教会の巡回伝道者**を**旅人**歓迎せず、追い出そうとした**デオテレペス Διοτρέφης**への**ヨハネの注意喚起**です。
 - ◇ **Ⅲヨハネ書1章11～15節**は、**11～12節**では、**デメテリオ**を見倣うよう**勧め**、**13～15節**では、**ガイオ**への**再会**の希望と**ガイオ**の仲間への**挨拶**が**認め**られています。
- ⇒「**神の真理のための共働者、ガイオ**」への**書簡**は、**注意喚起**から**模範者推薦**へ移行。

本論；

◇本日、Ⅲヨハネ書1章11～15節から主の使信に思い・心をとめます。

◆Ⅲヨハネ1章11～15節；ヨハネは、ガイオへ神の教会の模範者デメテリオを推薦しています。

◇11～12節；塚本訳◆デメテリオにならえ

「11 愛する者よ、あなたは(そのような)悪をまねず、善をまねよ。善を行う者は神から(出たの)であり、悪を行う者は神を見たことがないのである。

12 あのデメテリオは、すべての人からも、また真理そのものからも、(正しいことを)証しされている。わたし達もまた(そのことを)証しする。あなたはわたし達の証しが、真実であることを知っている。

◇13～15節；塚本訳◆結び

13 あなたに沢山書くべきことがあるが、インキとペンで書くことをしたくない。

14 (そちらに行き、)じきにあなたに会いたいと望んでいる。そして口と口で語ろう。

15 あなたに平安あらんことを。友人達からあなたによろしく。(そちらの)友人達にひとりひとり名を指して、よろしく」と、ヨハネは語ります。

◇11～12節;(デオテレペス $\Delta\iota\omicron\tau\rho\acute{\epsilon}\phi\eta\varsigma$)のような者の「(そのような)悪」を、「あなたはまねず」、(デメテリオ)の「善をまねよ」、「善を行う者は神から(出たの)であり」、「悪を行う者は神を見たことがない」、「デメテリオは、すべての人からも、また真理そのものからも、(正しいことを)証しされている」、「わたし達もまた(そのことを)証しする」、「あなたはわたし達の証しが、真実であることを知っている」と語り、「デメテリオの善行者の生活」へ「見倣う」ことをヨハネは推薦しています。

⇒11節は、ヨハネがガイオへ注意喚起した「デオテレペス $\Delta\iota\omicron\tau\rho\acute{\epsilon}\phi\eta\varsigma$ 」の「(そのような)悪」を強く意識しています。

⇔「あなたは(そのような)悪をまねず」を先ず文頭に置いて、次に、「善をまねよ」と、勧めているのです。

⇒「悪を行う者は神を見たことがない」のです。

⇒それに対して、「**善を行う者は神から(出たの)である**」と、ヨハネは語りますが、この「**善**」は、外見よりも内面を考えたことばです。

⇔ヨハネにとって、「**善行ἀγαθοποιία**」は、ユダヤ人の間では、マタイ6章で語られていますように、①**施し(旅人接待)**を含みます)、②**祈り**、③**断食**の3つをすぐ連想させるものであることをよく知って、**ガイオ**に語っているのです。

⇒12節では、「**デメテリオは、すべての人からも、また真理そのものからも、(正しいことを)証しされている**」と、「**あのデメテリオ**」と、ヨハネが語ることばには、「**デメテリオ**」への強い信頼・信任が、ヨハネにはあったことを推測させます。

⇒ヨハネは、「**すべての人**」とともに、「**真理そのもの**」からの「**証し・証言・証明**」を強調していますが、「**真理**」が擬人化されていると多くの人々が認めています。

⇒「**真理**」は、「**神の変わりのない恵みへセド**」を表現するとともに、「**神の約束への真実な心・思い**」をも含んでいると理解されています。

- ⇒「**神の真理そのものの証明**」とは、ガイオと同様、「**真理に立っていること、(すなわち)いかに真理を歩いている**」かと、ヨハネが、ガイオの**神信仰**を知っていたように、**神の真理に忠実に生きるデメテリオ**を**神ご自身・主イエス・キリスト様ご自身**が、「**証明**」しておられると語っていることなのです。
- ⇒ヨハネは、書簡においては、「**永遠のいのち**」を「**主イエス様ご自身**」(Iヨハネ書1:2)とするように、**12節**の擬人化された「**真理**」も、同じ発想です。
- ⇒「**あなたはわたし達の証しが、真実であることを知っている**」(12)とも、ヨハネは語りますが、この「**知っている**」は、**11節**の「**見た**」と同様に、「**完了時制の動詞**」が用いられています。
- ⇒**11節**では、「**デオテレペス**Διοτρέφης」が、**12節**では、「**デメテリオ**」が、それぞれ違った立場で、「**神の真理**」に向き合っているのです。
- ⇔「**デオテレペス**Διοτρέφης」は、「**神の恵み**」を「**見る**」ことができず、「**デメテリオ**」は、「**神の恵み**」を知り、「**神の真理と約束**」に立った！

結論；

- ◇ **神**は、変わらない愛と思いやりの神です。
- ◇ **Ⅲヨハネ書**は、**Iヨハネ書**や**Ⅱヨハネ書**と違い、**ガイオ**への個人宛の書簡という形式をとっています。
- ◇ 併し、冒頭の「**長老から**」という書き出しや**4節**の「**教会の集まり**」の表現から、**ヨハネ**による**牧会的公的書簡**として、**神の教会**で大事にされてきました。
- ◇ **Ⅲヨハネ書1章1～8節**は、**神の教会**で用いられていた**ガイオ**へ「**彼が、神の真理に立って歩んでいる**」ことを**喜び**、「**旅人をもてなしている善行**」を「**継続**」してほしいとの**願い**が**認められ**おり、**9～10節**は、**教会の巡回伝道者**を**旅人歓待**せず、**追い出そう**とした**デオテレペス Διοτρέφης**への**ヨハネの注意喚起**です。
- ◇ **Ⅲヨハネ書1章11～15節**は、**11～12節**では、**デメテリオ**を見倣うよう**勧め**、**13～15節**では、**ガイオ**への**再会**の希望と**ガイオ**の**仲間**への**挨拶**が**認め**られています。

- ⇒**神信仰に忠実に生きたガイオは、「神の真理のため」、「神の真理に歩んだ兄弟たち(巡回伝道者たち)に、旅人接待」の「忠実な義務を果していた」**のです。
- ⇒併し、「**デオテレペス Διοτρέφης**」は、長老(ヨハネ)の「**神からの真理**」、「**神からの恵みへセド・約束への誠実さ・忠実さ**」を示す**神の教会の役目**を理解せず、**神の真理のことば**を語る長老(ヨハネ)や**巡回伝道者**を罵り、**旅人歓待**を拒否し、その**説教牧会奉仕**を妨害し、**教会から追放しよう**としたのです。
- ⇒「**デメテリオ**」も、ガイオと同様の「**神の真理**」への敬虔さを保持する「**神の教会の共働者**」でした。
- ⇒**神の教会が、ガイオやデメテリオのような神の真理に立って生きる模範者**を与えられていることは、幸いです。
- ⇒庄原教会は、創立、あるいは宣教開始から120年、「**神の真理に立って生きる模範者**」を与えられてきました、バーンズ婦人宣教師に始まり、松山静師まで、福音宣教の「**証し人**」を得ています、これらの聖徒に学びたい。